

SPRING

No.102

日本大学生産工学部 2014年3月20日発行

- 学部長メッセージ
卒業生に贈るお祝いメッセージ
- 特別企画 大学院
- 特集 2013年の就職状況と2014年の展望
- 就職活動体験記
- 学科ニュース
- 連載 / 卒業生インタビュー
マーテック株式会社 副参事 小松慶亮さん
- 平成25年度表彰学生
- CAMPUS NEWS
- 平成26年度行事予定

アカデミックプランのビジョン

持続可能な社会をめざした生産工学の実践教育と研究開発によって、次世代の国際社会を創造する【SPRING】

持続可能な社会 **S**ustainable Society
実践教育 **P**ractical Education
研究開発 **R**esearch & Development
生産工学 **I**ndustrial Technology
次世代 **N**ext Generation
国際社会 **G**lobal Community

「SPRING」を実現するためのキャンパス整備計画を検討中

Contents

- 学部長メッセージ……………2
- 特別企画・大学院 ……4～7
- 特集
 - 2013年の就職状況と2014年の展望…8
- 就職活動体験記……………10～12
- 学科ニュース……………13～17
- 連載／卒業生インタビュー……………18
 - マーテック株式会社 機械部
 - 探傷機械グループ 副参事 小松慶亮さん
- 平成25年度表彰学生……………20
- CAMPUS NEWS ……22
- 平成26年度行事予定……………23



表紙：40号館外観
(裏表紙に内部写真を掲載)



日本大学生産工学部
学部長

松井 勇

平成25年度学部卒業生ならびに大学院修了生の皆さま卒業・修了誠におめでとうございます。ご家族の皆さまのお慶びもひとしおのことと心よりお慶び申し上げます。

3.11。それは、これから歩いてゆく人生の中で、決して忘れてほしくない、忘れてはいけないうことです。

学部学生・大学院学生として過ごしたこの数年間の内で、未曾有と言われる「巨大複合災害」は、2011年3月11日午後2時46分、東日本一帯を襲いました。地震、津波、それに追い打ちをかけた原発事故は多大な人的被害、経済的被害、そして美しい風土に被害をもたらしたことは言うまでもありません。「巨大複合災害」に打ちのめされ、深い喪失感と大きな悲しみに突然遭遇した被災者の人たちと被災地に私たちはどう向き合い、何をすべきかを一人ひとりが真剣に考え、想いを馳せ、ボランティア活動を初めとする種々の行動に赴いたことでしょう。これは今後の人生の中でも貴重な体験として、必ずや生き、そして生きてくると、私は信じています。

ドナルド・キーンは「果てしなく美しい日本」の中で、『この国の全体的な印象として誰もほほ例外なく抱くのは、まれに見る美しい国土、親切で魅力的な人々、

卒業生へ贈るお祝いメッセージ

見る者に生き生きと伝わってくる活力に満ちた都会、そして、農耕に明け暮れる一年の太古以来変わらぬ周期に依然として従っている農村の生活であろう。』と述べていますが、一瞬にしてその全てを喪失した事実を次世代へ必ず語り継がなくてはならないことであると強く思うと同時に、今こそ「人間の叡智」が問われる時だと感じております。

生産工学部は、1952年（昭和27年）工学部（現理工学部）工業経営学科を前身とし、1966年（昭和41年）生産工学部に改組され、現在に至っております。経営管理能力を備えた技術者の育成を理念とし、我が国で初めて経営管理能力を有する技術者の育成を教育目標とした学部であり、産業界に最も近い工学系の学部として、創設以来、我が国の産業界の発展に貢献しております。

マスコミに取り上げられた「下町ボスレーネットワークプロジェクト」は、東京・大田区の町工場の若手経営者たちが「知恵と技術」を結集し、イタリア代表のフェラーリ、ドイツ代表のBMWに挑戦しているメード・イン・ジャパンの国産マシンを開発し、日本代表を応援しようというプロジェクトであります。

生産工学部では、このような「知恵と技術」・「高度なマネジメント力と技術力」を学ぶことができ、「夢をくれた」場であってほしいと願っています。

生産工学部のキャンパスで過ごした数年間。生産工学部で学んだ教養、基礎、専門知識や工学技術そして生産技術は、社会に出てから役に立つことが多いはずで

学部学生が卒業するということ、大学院学生が修了するということは、社会に対する最低の保証を日本大学が与えたことに他なりません。言うまでもなく、『日本は技術創造立国です。だから生産工学部』の社会的意義が歴然と存在しており、同時に社会から強く優秀で勤勉な人材を求められていると言っても過言ではありません。その生産工学部、生産工学研究科を卒業、修了したことに大いに誇りを持ってください。そして、生産工学部、さらには卒業・修了研究室は、言うまでもなくこれから世界に羽ばたいていく皆さんのベースキャンプです。そこで過ごしたこと、そこで学んだこと、そこで指導を受けたこと。そして、そこで一生付き合える友人と出会えたこと。これからの人生の糧を得た重要な場所です。このキャンパスそしてキャンパスでの思い出を決して忘れてはいけません。何かがあれば再び訪ねてきてください。訪ねること。それは卒業生、修了生の皆さんの特権です。

卒業、修了後は、先ず、『時間を大切に』してください。永平寺で有名な曹洞宗を開祖した道元禅師は、『いたずらに過ごす月日は多けれど、道をもとむる時ぞ少なき』と説いています。

次に、『日本大学のスケールメリットを大いに活用』してください。日本大学は124年の歴史があり、校友（卒業生）は、世界中の国や地域そして国内の全ての地域で活躍しています。今後は、さまざまな校友とのつながりを大切に、財産として、協同・協働を積極的に行い、自信と勇気を持って社会で大いに羽ばたかれることを祈念して、「卒業生に贈るメッセージ」といたします。

卒業そして修了おめでとうございます。

大学院生産工学研究科への誘い(いざない)

潜在能力の覚醒／発揮

近年、大学卒業後に大学院に進学する学生が増加している傾向にあります。政府統計資料によると、全国の大学院在籍者数は1990年の約9万人から2012年には約27万人になっており、20年間で約3倍の増加となっています。しかし、次の段階として質的な改善が重要視されています。

大学院教育の量から質への改善として、中央教育審議会から2005年9月に答申された「新時代の大学院教育」一国際的に魅力ある大学院教育の構築に向けて一や、それを受けて文部科学省から2006年に「大学院教育振興施策要綱」が策定され、多くの大学で大学院教育の改革が進められてきました。その改革を進めるために、2007年度から大学院におけるFDの義務化も図られてきました。さらに、2011年1月の中教審答申「グローバル化社会の大学院教育」一世界の多様な分野で大学院修了者が活躍するために一、を踏まえて文科省からは「第2次大学院教育振興施策要綱」が策定され、今後ますます大学院教育改革の加速が予想されます。これらの答申や要綱に出てくるキーワードとして、

- ①知識基盤社会(知識／情報／技術)
- ②国際化(グローバル化)
- ③大学院教育の実質化(質の保証)などが挙げられています。

本研究科では、このような社会的動向および

本学の教育目標・理念の「自主創造」を踏まえて、本年度から専門科目に加えて各専攻の共通科目として生産工学系科目(基盤科目、発展科目、実習科目)を設置し(表1参照)、実施してきました。

特に、「生産工学特別演習」では、専攻をまたいだ大学院生で構成されたチームで、設定された課題を解決する過程を通し、チームとしての役割と責任を持ち、その遂行のためのコミュニケーション能力、工程管理能力、およびプレゼンテーション能力などを身に付けることを目標としています。また、国内外でのインターンシップを通して、研究・開発、経営管理などに関する課題を遂行・解決し、研究・開発などを自ら計画・遂行することのできる素養を身に付けるために「生産工学特別実習」を設置しました。さらに、学部在学生の本研究科における授業科目の履修制度も併せて設けました(海外では、AP:Advanced Placement 制度とも呼ばれています)。

以上の施策を導入し、柔軟で俯瞰的な思考を養い革新的な生産技術を身に付けた実践的技術者の育成を目指しています。

最後に、フランスの生化学者／細菌学者ルイ・パスツールの有名な言葉を参考にすると、『技術には国境はないが、技術者には母校がある』と言い換えられるでしょう。本研究科で皆さんの潜在能力を覚醒し、発揮してほしいと願っています。

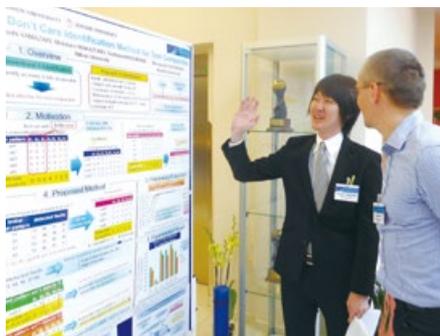
表1. 博士前期課程カリキュラムおよびその履修条件

履修区分	科目名	必修単位数	選択単位数	修得単位数
生産工学系科目	基盤科目 ・技術者英語特講A ・技術者英語特講B ・産業社会論特講 ・応用数理特講 ・応用物理学特講 ・物性化学特講		1 2 2 2 2 2	33
	発展科目 ・生産技術マネジメント特講 ・リスクマネジメント特講 ・エネルギーマネジメント特講		2 2 2	
	実習科目 ・生産工学特別演習 ・生産工学特別実習		2 2	
専門科目	選択科目		専門科目から8科目 16単位以上とする(他専攻から最大6単位まで修得することができる)	
	必修科目 ・特別演習 ・特別研究	4 6		
修了単位数		10	23	33

院

■大学院生紹介■

■博士後期課程 数理情報工学専攻 2年 山崎紘史



博士後期課程数理情報工学専攻2年の山崎紘史君は、VLSI（超大規模集積回路）の設計やテストを自動化するためのCAD（コンピュータ援用設計）ソフトウェアの研究を行っております。

VLSIは製造時にある割合で正常に動作しない不良品が混入されてしまいます。この不良品を市場に出荷しないように、良品と不良品を選別する作業をVLSIのテストと言います。しかし、近年VLSIは半導体製造技術の発達により回路が大規模化、高速化しておりテストコスト（テストに必要なデータ量や時間）や、誤ったテストの原因となるテスト時消費電力の増大が大きな問題になっております。

山崎君の研究テーマはテストコストを削減するためや、テスト時消費電力を削減するためのテスト生成法およびテスト容易化設計法に関するものです。その研究内容は電子情報通信学会の学術論文誌に掲載され、チェコやインドでの国際会議において発表されて、世界の研究者から高い評価をいただいております。

■博士前期課程 機械工学専攻 1年 井上真生

私は「容器回転実験系において対流が磁場配向に及ぼす影響の評価」というテーマのもと、回転容器内に発生する対流の研究を行っています。

地球上の全ての物質は磁性を有しており、磁石に作用しないと思われている物質も超伝導マグネットがつくる強力な磁場で動かすことが可能となりました。昨今のモノづくりにおいて材料の機能性が重要視されている中、磁場配向は非磁性金属、セラミックス材料などの機能向上に有力な方法の一つと考えられています。

溶媒中に微粒子が分散した容器を静磁場下で回転させる3次元配向法の場合、今後実用化を目指した大きなスケールでは容器内の対流が製品の品質と生産性に影響を与える可能性があります。そこで、数値シミュレーションにより磁場配向と対流の相関を調べています。

大学院では大学時代に授業で学んだことをより深く、さらには学べなかったことを学ぶにはうってつけの環境であり、この貴重な時間を大切にしています。



■博士後期課程 土木工学専攻 1年 加納孝志

加納孝志氏は大成ロテック（株）の技術研究所に勤務されており、平成25年4月に社会人ドクターとして入学した博士後期課程1年の大学院生です。

加納氏は平成6年に生産工学研究科博士前期課程土木工学専攻を修了していますが、学部時代の卒業研究からアスファルト混合物に関する研究を行っており、入社後も関連した研究を行っています。したがって、20年以上もアスファルト混合物に関する研究を行っており、これまで研鑽を積んできた成果をまとめ、博士の学位を取得したいという強い希望から大学院に進学しました。

大学院では、ここ数年アスファルト混合物の再生利用について化学的あるいは工学的な視点から検討を行っていることから、リサイクル材としての有効利用方法について定量的に提案することを目的に研究を行っています。

社会人
ドクター



生産工学特別演習

「生産工学特別演習」は、平成 25 年度から導入された新しい科目です。

本科目は PBL (Project Based Learning: 課題解決型学習) 教育として導入され、1 チーム 5 名程度の大学院生により構成されています。この教育方法は実践的な能力が重視される分野ではポピュラーな方法であり、他大学はもちろん本学部でも授業としていくつかの学科で既に導入されています。

生産工学研究科における PBL 教育の特徴は異なる専攻の院生によってチームが構成されている点にあります。他専攻の大学院生と共同作業を行うことで考え方の視野を広げることなどが狙いです。考え方や専門分野が異なる大学院生との共同作業の経験は、将来、チームとして困難な課題を解決する際の一助となります。

また、今年度は一つのチームに対して複数名の教員が担当することとなりました。この点も特徴といえます。異なる分野の教員が一つのテーマを担当することから、さまざまな視点からの指導が可能となりました。

授業形態は、各チームの大学院生と担当教員のスケジュールを調整して授業を行う形で実施

しました。夏期休暇中に集中的に課題を実施するチームや、毎週決まった日時に集合して課題を実施するチームなど、極力多くの大学院生が集合できる授業形態を採用しました。

本科目は 4 月のガイダンス時での課題揭示、受講希望者の募集と希望テーマの調査から始まります。

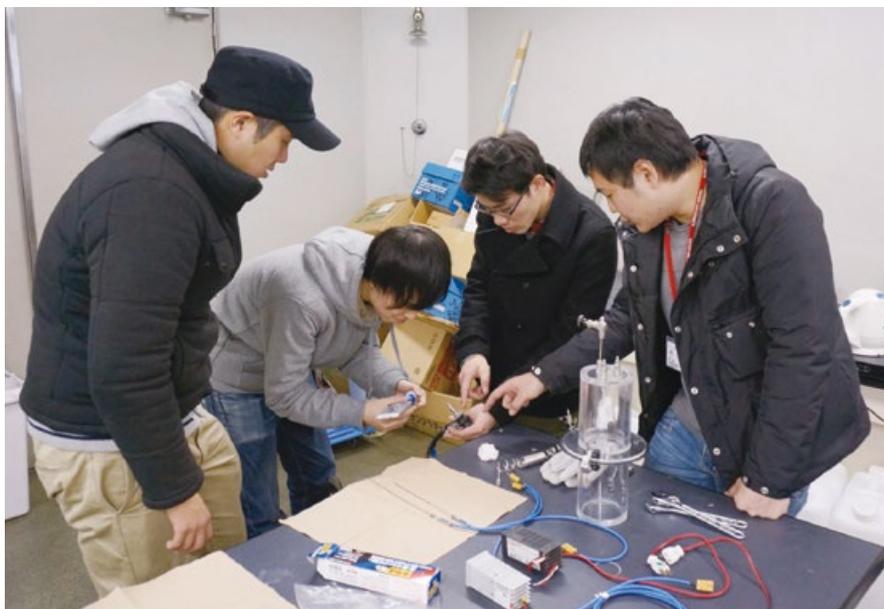
平成 25 年度のガイダンス時に揭示した課題数は 14 テーマであり、受講希望者は 70 名でした。

チーム構成に専攻の偏りが出ないように課題と受講希望者を調整した結果、6 テーマ、40 名 (8 チーム) の受講者となりました。受講希望者が全員受講できなかった点は改善の余地が残されています。

9 月末には中間発表会を実施しました。中間発表会には約 100 名の聴講者が集まりました。

平成 26 年 1 月には、本科目と同様に平成 25 年度の新科目である「生産工学特別実習」と合同の成果発表会を行いました。

この科目は平成 26 年度には 2 年目となります。生産工学研究科の特徴ある科目の一つとして、学外にも発信できるよう、さらなる発展を期待するところです。



課題製作の様子

院

■生産工学特別実習報告■

大学院生が中国科技大の夏季インターンでモーションキャプチャ技術を習得

■博士前期課程 数理情報工学専攻 1年 藤下理美

数理情報工学専攻の大学院生 3 名（岡研究室及び古市研究室の所属）が、平成 25 年 9 月 1 日から 9 月 14 日まで、台湾台北市に所在する中国科技大でモーションキャプチャ技術を習得するために行ってきました。これは、本年度より始まった生産工学特別実習という講義の一環として実施したもので、国際化に対する関心が高く映像制作に興味のある学生が、企業や研究機関などの一つとして中国科技大を選んだものです。

モーションキャプチャ技術とは、映画制作やスポーツ科学の研究等さまざまな用途で使われており、台湾におけるモーションキャプチャの第一人者である規格設計学院の許（Hsu）先生から 2 週間指導を受けました。

講義は主として英語と中国語により行われ、一緒に受講した中国科技大で日本語を学んでいる学生の皆さんによる通訳を交えて学びました。約半分は実際にさまざまなモーションキャプチャの装置を使っての実習で、ラジオ体操の動きをさまざまなジェスチャーのデータを取得し、帰国後の研究に役立てることができました。

台湾に行く前、数理情報工学科のマレーシアからの留学生に中国語と英語を教してもらってから実習に臨みましたが、最初に中国語で自己紹介をした時には皆さんからウケました。また、週末などは中国科技大の学生の皆さんに台北の街を案内していただいて次第にコミュニケーションができるようになるのを実感し、国際化に対する感心がさらに高まって帰国しました。



「中国科技大学での生産工学特別実習」

■博士前期課程 建築工学専攻 1年 浪花翔馬

私は平成 25 年 9 月 3 日～9 月 14 日の約 2 週間、台湾の中国科技大学で生産工学特別実習を行いました。建築工学専攻からは私を含めた合計 5 名の学生が参加しました。

実習では座学やフィールドワークを中心に、台湾の歴史的建造物について学びました。特に印象に残っているのはジブリ映画「千と千尋の神隠し」の温泉街のイメージとして使われた九份（きゅうふん）の街並み見学です。

休日には中国科技大学の学生と野柳（やりゅう）地質公園や士林（しーりん）夜市、台北 101 などを訪問し、台湾の自然や文化を感じることができました。言葉や食文化が異なる台湾での約 2 週間は、とても貴重な経験になりました。

本実習では中国科技大学の徐 淵静先生、顔 敏傑先生をはじめ多くの先生方のご協力、ご指導をいただきました。ここに記して謝意を表します。



野柳（やりゅう）地質公園の視察
浸食によって岩石が風化したクィーンズヘッド
（左端 1 名と右から 4 名が建築工学専攻の 5 名。左から 2 番目と 3 番目は日本への留学経験がある中国科技大学の学部生）

2013年の就職状況と2014年の

2013年の状況

2013年の就職状況は、経済状況が上向きとなっていることも影響して、昨年より好転しています。近年、2008年のリーマンショック以来、徐々にではありますが景気の回復とともに就職状況も良くなっています。しかし、残念ながら2008年以前の水準には戻ってはいません。

2013年では、多くの企業が内定式を行う10月1日までの内定状況は、国公立大学が67.8%（前年同期比0.2%減）、私立大学が63.1%（1.6%増）であり、また文系では63.0%（0.6%増）、理系では70.3%（3.5%増）となっています。生産工学部では全体（学部・大学院）で66.3%（10.8%増）であり、昨年、2012年度と比較すると上昇し

ています。

生産工学部では2012年度、就職支援として、初めて3年生を対象にSPI模擬試験を費用の全額学部負担で9月に、さらにその結果をもとにSPI実践講座を4回、費用の一部は学生負担で実施しました。そして本年2013年度、SPI実践講座の受講者の就職内定状況からその有効性が明らかになりました。

SPI試験では、理系で言語系60点、非言語系80点が基準とされています。

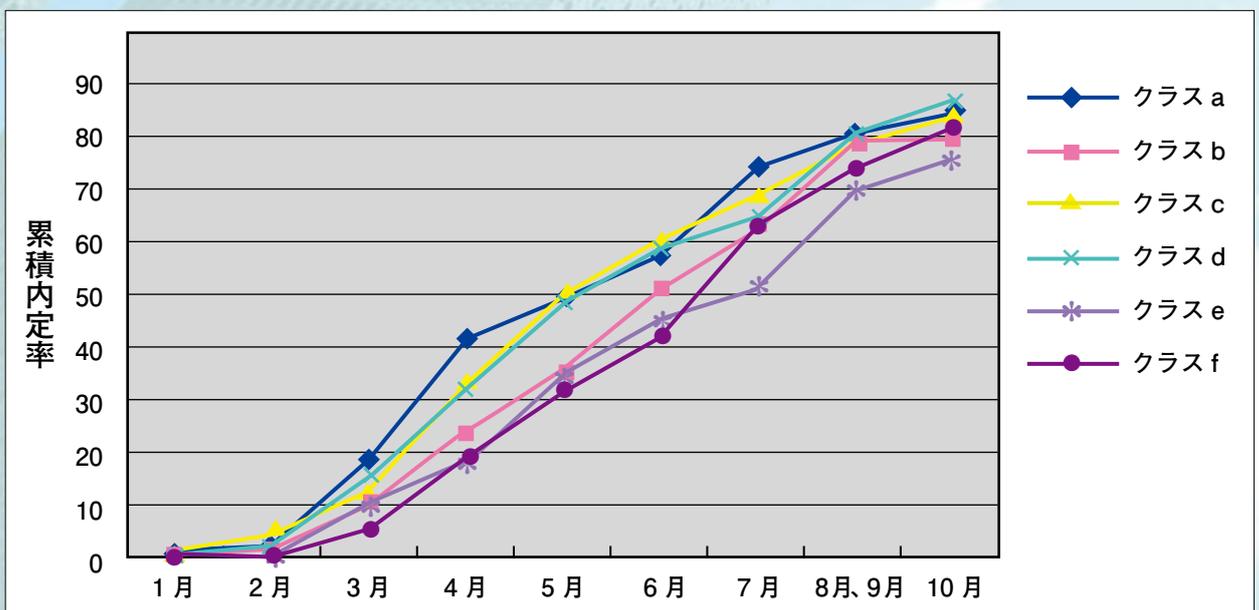
SPI実践講座では、模擬試験後380名が受講を希望し、模擬試験の結果をもとにして、クラスaからクラスfまで6クラスに分け、個別に指導を行いました。

2013年10月1日の時点で、受講

者380名のうち、就職希望者は331名で、270名が内定し、内定率は81.6%です。同時期の生産工学部全体では66.3%ですので実践講座受講者の内定率は高い値を示しています。

実践講座のクラス別に2013年1月から10月までの累積内定率を下図に示します。

模擬試験の成績が比較的上位のクラスaでは3月、4月の就職活動初期で確実に内定を得ていることがわかります。また、模擬試験の成績が比較的下位のクラスfでも初期段階ではなかなか内定が得られないものの、着実に内定を得て、10月の時点では模擬試験の成績上位のグループと同等の累積内定率となっています。このようにSPI実践講座を受講した学生と受講しなかった学生との違いは明らか



展望

かです。しかし、SPI 模擬試験の結果から、非言語系の基準である 80 点にもう少しで到達するグループ、すなわちぜひ実践講座を受講してほしい学生層からの受講者が少なかったことが残念です。来年度は、一人でも多くの学生が SPI 実践講座を受講することを希望します。

2012 年度の生産工学部の就職希望者の最終就職率は 91.4% でした。2013 年度も昨年と同様に推移し、最終就職率はほぼ同じか、やや上回るものと思われます。

2014 年の展望

2015 年度より経団連との協議により、就職活動解禁時期の後ろ倒しが決定し、従来の就職活動スケジュールは 2014 年度が最後になります。

すでに 12 月 1 日より就職活動が解禁され、会社訪問、セミナーなどに多くの学生が参加しています。

2014 年度は 2020 年東京オリンピックの開催決定を受けて土木、建築系の業種を中心に就職状況の好転が期待されます。しかし、4 月からの消費税の増税により、経済状況は不透明で、就職状況が急激に好転する保証はありません。

生産工学部では 2014 年度も例年通り、就職支援を行います。主な就職支援として現 3 年生向けに、2 月上旬に生産工学部就職セミナーを開催し、その翌週から SPI 対策講座を追加で開催します。また新 3 年生向けには、9 月下旬に SPI 模擬試験、10 月下旬より SPI 対策講座、10 月下旬より就職対策講座を実施する予定です。

2013 年の動向をみると、早期に内定を勝ち取った人は、早い時期から就職意識を持ち、自己分析を行い、自分なりに企業を研究しています。

一方、なかなか内定がもらえず、適性試験、面接などで不合格となる人は、その原因を考え、修正することなく、また Web 情報に惑わされるなど、同じ過ちを繰り返しています。

企業選択では、大企業を支えるのは中堅企業であることも認識し、知名度、規模による企業ブランドへの「就社」ばかりではなく、自分の適性を理解し、身の丈に合った、後に良かったと思える「就職」をしてほしいと思います。

2014 年も一人でも多くの学生が、希望する企業への就職が実現できるように就職支援を行いたいと思っています。

スタートは
己を知ること



就職活動体験記

機械工学科

竹内 亮佑

東日本旅客鉄道 株式会社 内定

私が就職活動を始めたのは3年生の12月からでした。2月に入るまでは、自己分析とSPIの勉強を行いつつ、就活サイトで興味のある企業を探しました。私は鉄道関係もしくは製造業の仕事に就きたいと考えていたので、それに関連する会社を見つけては片っ端からプレントリーし、説明会の予約をしました。

2月に入ると個別説明会がはじまり、私は約30社の会社説明会に参加しました。しかし、説明を受けてこの会社に入社したいと思えたのは数社しかなく、実際にエントリーしたのは6社だけでした。周りの人に比べるとエントリー数が少なく不安なところもありましたが、企業研究やESに費やす時間をしっかりとると6社だけでもとても大変でした。

ゴールデンウィーク前には東日本旅客鉄道(株)から内々定をいただき、就職活動を終わりました。

私が就職活動の上で大きな転機となったのは、2月に本学部で開催された就職セミナーです。私は就職活動を始めた当初、自己PRや志望動機をどのように表現してよいかわからず、とても悩んでいました。そんな中、私は就職セミナーに参加しました。私が聞きに行った会社の人の多くが、会社の説明だけでなく就職活動に関する相談やアドバイスをしてくれました。私はここでの経験によって自己PRや志望動機の表現に確信が持て、自信を持ってESや面接に臨めるようになりました。

就職セミナーは企業の説明が聞けるだけではなく、社会人、それも人事の人と話ができるチャンスです。社会人の考え方を知るには社会人と会話をするのが一番であると思います。就職活動に自信のない人、自己PRや志望動機の書き方がわからない人は、この就職セミナーに積極的に参加することをお勧めします。

最後に、就職活動は長くつらいものですが、しっかりと自分と向き合い、真剣に取り組めば必ず道は開けます。頑張ってください。

電気電子工学科

秋田 拓実

株式会社 日立パワーソリューションズ 内定

私の就職活動は、12月から内定通知をいただいた6月までの約7か月間でした。

大学で学んできた電気の知識を生かせ、さらに環境問題やエネルギー問題に貢献できる企業を軸として就職活動を進めていきました。私はそのような自分の軸に合う企業を、本学に求人票をくださった企業や、生産工学部合同セミナーに来てくださった企業を中心に探していきました。求人票も合同セミナーに参加していただいた企業も、本学部生の採用を真剣に考えていますので、内定をいただける確率も当然高いです。企業研究をする際は、そのような企業や本学部の採用実績のある企業を中心に行うことをお勧めします。

次に、ほとんどの企業で筆記試験やSPIを実施しますので、その対策が必須です。私は3年の夏休みから対策を始め、参考書や本学で行われたSPI対策講座、就職支援サイトの練習問題で勉強しまし

た。筆記試験やSPIの得点に明確な基準を設けている企業もありますので、早めに筆記対策を行ってください。自分自身、早めに筆記試験、SPIの対策を行っておいて本当に良かったと思っています。

しかし、私は面接に苦戦し、これが就活の大きな壁となりました。面接がなかなかうまくいかないことに危機感を持った私は、周りの友達や先生方、就職指導課などさまざまなところに足を運び、意見を求めました。たくさんの人からアドバイスをもらい、自己分析や志望動機、過去の面接などを見つめ直しました。こういった謙虚な姿勢や、うまくいなくてもあきらめなかったことが内定という結果に結び付いたのだと私は思っています。面接はとにかく、「明るく元気に堂々と」を意識すれば大丈夫だと思います。

就活中は不安でいっぱいでしたが、なんとか乗り越えることができました。就活は一生に一度なので、ぜひ納得のいくように頑張ってください。最後に、この就活体験記が少しでも皆さんの参考になれば幸いです。

土木工学科

北田 創平

株式会社 竹中土木 内定

私が就職活動として最初に行ったことは自己分析と業界研究です。その結果、私は建設会社に入社してライフラインの整備に携わりたいと考え就職希望を建設会社1本に絞って就職活動をしました。

まず行ったことは、いろいろな建設会社の説明会へ行くことです。私が心がけていたことは説明会に参加したときは、必ず1回は質問をすること、社員の人の印象に残ること、の二つを決めていました。企業説明会では気になったことは何でも質問をして、質問の時間内に聞けなかったことは説明会が終わった後に直接社員の方に話を聞きに行きました。

実体験ですが面接では説明会で説明してくれた人が面接官を務める場合もあるので、顔を覚えてもらうといろいろと助けてもらえます。

私が入社試験を受ける会社を選んだ基準は、社員の方の雰囲気や

新入社員研修の充実度で決めました。

試験を受ける会社を決めてからはひたすら面接練習をしました。筆記試験対策では学校で行われていたSPI講座に参加しました。ですが落ちた会社もあります。今では建設会社を希望しているなら最低限SPIとコンクリート、土質、構造の三つは勉強しなければいけなかったと反省しています。

面接試験対策では自己分析をしっかりと自分がどういった人間で、会社に入社したら何をしたいのかということをはっきりと考えました。ここでは、五年後、十年後はどんな人間になりたいかを具体的に考えておくことが重要です。また、当たり前ですが、元氣よく受け答えをすることを心がけました。言い方は悪いですが、利用できるものは何でも利用する位の貪欲さが必要です。

就職活動は自分の一生を左右することです。だからこそ、今までしたことのない経験をすることができ、人として成長するチャンスなのでこの機会を生かして自分のために頑張ることが大切だと思います。

就職活動体験記

建築工学専攻

高橋 潤

株式会社 乃村工藝社 内定

私は商業空間、博物館の展示空間などの内装展示に関わるディスプレイ業界の乃村工藝社に内定をいただきました。

私の就職活動は、大学院1年時の夏にインターンシップに参加し、その後10月～12月に企業主催のイベントに参加。12月からは会社説明会と就職活動が本格化していき、1月～2月に書類、面接選考。3月末に内定といった流れでした。

私は企業選びに対しては、あまり悩まず何が何でもこの会社に入りたいという強い熱意がありました。就活を通して大事なことは、「本気である姿勢を示すこと。行動に移すこと。態度で示すこと。」です。エントリーシートは丁寧に綺麗に書くことを心がけ、企業のイベントにはすべてに参加。また施工事例は時間のある限り見学し、先輩社員にはポートフォリオをみてもらい指導していただきました。人よりも早い時期から行動に移し、自分が本当にやりたいことは何なのか、どのようにして自分の強みを会社に活かしていける

かを真剣に考え、向き合ったからこそ内定をいただけたのだと思います。

またエントリーシート、面接、ポートフォリオのプレゼンなどの選考過程では、常に「その経験で何を考え、どう行動し、どのような能力を発揮したか、または身につけてきたか」を念頭において取り組みました。

私は、自己分析ノートを1冊用意し、上記の視点で研究室の活動、コンペ、文化祭、アルバイトなどを整理していきました。このノートで整理したことが、自分自身の就活のベースとなり、自信にもつながりました。さらに、「就活はひとりよがりにならない」のも成功の秘訣です。エントリーシート・面接練習など研究室内の先輩、友人には何度も見てもらい、悩みや不安も聞いてもらえたのも大きかったと思います。

最後に皆さんも、就職活動を楽しむくらいの勢いで熱意をもって行動し、自分自身と向き合って頑張ってください。また同じ業界を志す人がいましたら、ぜひ声をかけてみてください。応援します！

応用分子化学科

佐藤 美咲

アルテア技研 株式会社 内定

私は3年生の12月に本格的に就職活動を始めました。主に化学機器（分析機器）業界と印刷業界を中心に活動を行い、ゴールデンウィーク前に第一志望の分析機器の商社から内々定をいただき、就職活動を終えました。

私は文章を考えることも話すことも苦手だったので、エントリーシート（ES）・面接ともに毎回とても苦労しました。その中でいつも心がけていたことは、まず「自分の言葉で書く・話す」ということです。どんな強みも実績も、見本のようなありきたりな言葉ではなく自分自身の言葉で表現できなければ、人事の方々の心には響きません。実例集などもとても参考になりますが、あくまで参考程度にし、自分の言葉でわかりやすく伝えられると良いと思います。そしてもうひとつは「笑顔で、会話を楽しむ」ということです。

私は緊張しやすい性格なので、面接では自分を出せないことが多くありました。なので、面接を“自分を評価される場”ではなく“年

上の方々との会話を楽しむ場”と捉えて臨んでいました。そうすることで普段通りのありのままの自分を出すことができ、自然と話はずむようになりました。

就職活動中は終わりが見えなくて不安になったり、思うように選考が進まず落ち込んだり焦ってしまうこともあると思います。就活に疲れてしまったら、一度全部やめて休憩してもいいと思います。

私も説明会や選考の予定を全部キャンセルし、1週間程度一切活動しなかった時期もありました。そのおかげでゆっくり考える時間をとることができ、改めて自分自身や就活について振り返り、新たな気付きを得ることもできました。うまく息抜きをしながら、一つ一つの選考に対して丁寧に取り組むことが大切だと思います。

就職活動では多くの出会いと貴重な経験にあふれています。そしてそれらは自分を何倍も成長させてくれます。

つらい時期もありますが、終わった後にはそれが自分の糧になっていると思います。頑張ってください！

マネジメント工学科

中村 安里

日本電気 株式会社 内定

私は、3年後期の就職ガイダンスをきっかけに就職活動について考え始めました。就職ガイダンスの度に就職活動が近づいてくることを意識していきました。それと同時に少しずつ自分自身のことについて考え始めました。

12月に入り、就職活動を中心とした生活が始まりました。私はSE職を希望していてIT業界に絞っていましたが、そのため、合同説明会は理系向けで回りやすいものを選びました。合同説明会を有効に活用するため、事前に参加するIT企業を調べ簡単な企業研究をし、当日は回る順番も決めていました。その結果、時間を無駄にすることなく1日に20社近く参加できる日もありました。説明会後はその日のうちに反省をし、説明を聞いた企業を整理しました。12月前半に、思い切って合同説明会の参加をやめ、12月後半からは既に採用活動を始めている企業に目を向け就職活動を進めていきました。そして3月中旬には内々定をいくつか

いただき、いったん就職活動を休止しました。4月になりまた再開をし、本命の企業のために活動を再開しました。そして5月中旬に就職活動を終えました。

私が就職活動中に大切にしていたことは、3点です。一つ目は、一つ一つの企業と丁寧に向き合うことです。エントリーシートや面接は企業によってすべて変えていました。数を受けるより、本当に行きたいと思える企業について深く知り、その熱意を伝えることが一番だと考えたからです。二つ目は、反省を欠かさないことです。それを繰り返すことによって日に日に納得のできる活動をしていくことができました。三つ目は、スケジュール管理の徹底です。就職活動が本格化すると、書類提出や選考の予定で手帳がいっぱいになります。そこで、毎日ToDoリストを作成し、漏れないようにすることはもちろん、期限に余裕をもってこなせるようにしていました。

就職活動は自分を見直す良いきっかけになります。就職活動を楽しもうという気持ちでぜひ臨んでみてください。

就職活動体験記

数理情報工学専攻

大竹 駿希

日本電気 株式会社 内定

私の就活期間は2月から4月までの3か月間で、エントリーを行った会社は、第1志望の NEC 含めた2社でした。

企業の方からは「第1志望の企業を受ける前に練習として他企業も受けた方が良い」、「就活における初打席は大抵良い結果には繋がらない」という助言もいただきました。先に内定が出れば、保険がある状態で第1志望の企業に臨むことができるからです。

しかし、経験したから大丈夫、内定があるから安心、そういった慢心と心の隙を私は持ちたくありませんでした。また、他社を受ける時間があるなら、その時間を企業研究に使いたいと考えました。そのため第1志望の NEC を最初に受けました。

私が就活で重視したのは、[妥協なき企業研究]、[自分の意見の具体化]、[論理的な思考] の3点です。

当初、情報を得るため、NEC のウェブサイトでは事業内容のペー

ジや志望者向けのページを閲覧しました。しかし、ウェブ上の内容だけでは志望動機や入社後のイメージにおける「自分の意見の具体化」が困難でした。そのため、技術に関する調査を行い、企業の技報や発表論文を読みました。その内容も参考に自分の考えをまとめ、エントリーシートの作成と面接に臨みました。

私は面接において、いかに自分の意見を具体的、論理的に言えるかが重要と考えました。[論理的な思考]については、自分の論理という柱を1本建て、その柱を軸として考えを具体化していきました。これだ、という自分の柱が確立していれば、面接中にどんな質問をされても、矛盾の発生や意見のぶれなども無くなるはずでした。

私の就活方法は、人から見たら後先を考えない、無謀な方法と思われるかもしれませんが、自らの就活方針を考えるときに、自分に一番合った方法がこれだったのです。

これから就職活動を行う皆さんも、自分に合う就活法を考えてみてください。就活の正解はひとつじゃないのです。

環境安全工学

木戸 和義

株式会社 アクティオ 内定

私の就職活動期間は、2012年12月から内定通知をいただいた2013年4月の5か月間でした。

就職活動を始めるにあたって、学内で行われる就職対策講座や、SPI 対策講座に参加したり、先輩に就職活動の話を知りたりして、モチベーションを高めていきました。内定をいただいた企業は、2月に会社個別説明会があり、その後、書類選考、筆記試験をクリアし3月に面接を行い4月には内々定をいただき、就職活動を終えました。

実際の活動としては、就職サイトを通じて自分の興味がある企業の説明会に予約をして参加すると同時に、エントリーシート（以下ES）の作成や SPI や面接の対策、就職活動に関する情報収集を行いました。

SPI 試験対策としては、会社によって形式が異なるため、できるだけ多く問題に取り組み、繰り返し学習を行いました。

ES 対策としては、自己分析を継続的にやり、自己PR・志望動機・

学生時代に頑張ったことを中心にまとめていきました。その際、「なんとなく」や「大体」といった漠然としたイメージでまとめるのではなく、「自分の能力がその会社のどのような事業で役に立つのか」を常に考えながらまとめると、より具体性を持たせることができると思います。

最後に面接対策としては、企業研究を徹底的に行いました。その企業の業界での位置や、強み・弱み、そしてこの先どのような方向に向かっていくかなどをよく理解しておくことが大切だと思います。企業の人は、面接で実質を見ようとしています。つまり、見せかけではなく中身が重要です。

ここまで一連の就職活動について述べてきましたが、どの項目も手を抜けないことばかりです。無理をせず長期的な計画を立て、それを確実に実行することで内定につながり、自信にもつながるはずです。

就職活動は、自分が社会人になる前に自分を見つめなおすいい機会です。ここでの頑張りが将来につながっていくと思うので、最後まで諦めずに頑張ってください。

創生デザイン学科

三輪 幸喜

株式会社 ヤマト 内定

自分が不安だった就職活動前半を重点的に書こうと思う。

マイナビ、リクナビなどに登録したら、とにかく興味のある企業にエントリーすればいい。それは、有名企業でも人気企業でも、自分の興味ある職種、やりたい仕事内容、なんでもいい。とにかく積極的にエントリーし、会社説明会に行きたくて欲しい。説明会に行かないと次のステップにも進めないが、やみくもに友達と行くというのではなく、自分のスケジュールと相談して計画的に活動してほしい。

どの会社にエントリーして説明会に行こうかではなく、会社説明会に行った後に、次のステップへ進むのかどうかの方で時間は使ってほしい。説明会に参加して話を聞くと、例えば同じ「設計」でも自分の理想の仕事内容とは違ったり、条件が合わなかったり、逆にふと参加していた会社で理想の仕事内容を発見したりするから。

仕事内容やジョブローテーション、人事異動、勤務地、給料、待遇など、おのおの重要視するところは違うと思うがすべてを満たす会社はまあ少ない。最初の時は特に、譲れない2、3点で会社を絞

るのでいいと思う。僕は、企画、人事、設計の職種に就きたいと思っていたので、人気、有名企業の企画職、一般企業の設計職（ハウスメーカー、インテリア、内装、設計会社）を中心に、異動は関東圏内であることと仕事内容は自分の納得いくものという2点の条件のもと、面接などのステップに進んだ。

自分は最初に Web 上で絞り、10社の選考に進むことにしたが、短期間に詰め込みすぎて、授業、バイト、履歴書、SPI、面接対策とで、めまぐるしかった思い出がある。

就職活動は個人の戦いと言うが、ぜひ友達、先輩と情報交換してほしい。特に学科の先輩には間違いなく同じ会社を受けた人がいると思う。そんな人にステップの流れや、面接の形式、質問内容など、具体的な話を聞くほど優位なものはないと思う。履歴書の書き方も、就職指導課に添削を頼めばやってくれるし、恐れ多いと思うのなら、頼れる友達や先輩、親に頼んでもいいと思う。他人に読んでもらうことが大事。面接の参考書を複数読破より、実際に受けたり、先輩、友達から話を聞く方が為になる。そして、経験を重ねていくうちに、自分のスタイルもできる。

機械工学科

学会等で研究成果を発表した多くの学生が様々な賞を受賞しています

機械工学科では、学生たちの国内学会、および、国際会議における研究成果発表を積極的にサポートしています。

発表した研究成果が高く評価され、受賞した学生が多くおります。

受賞記録の1部を右記にご紹介します。

卒業後、修了後のますますの活躍を機械工学科教職員一同、期待しています。



賞状を手に喜びの表情を浮かべる学生たち

年度	学生氏名	学年	受賞名
平成 23 年度	青木 翔	M2	「日本塑性加工学会・学生奨励賞」を受賞
	船田 寿岳	M2	「日本塑性加工学会懸賞論文・優秀論文賞」を受賞
	萩野 敏基	M2	「軽金属学会関東支部若手研究者特別研修会・優秀研究講演賞」を受賞
	渡部 雄太	M2	「軽金属学会関東支部若手研究者特別研修会・優秀研究講演賞」を受賞
	河添 由馬	M1	「日本設計工学会・学生優秀発表賞」を受賞
	萩野 敏基	M2	「軽金属学会秋期大会・優秀ポスター賞」を受賞
	渡辺 唯	M2	「照明学会東京支部大会・優秀研究発表賞」を受賞
	伊藤 貴広	4 年	「日本人間工学会関東支部大会・発表奨励賞」を受賞
	鈴木 崇司	M1	「日本機械学会・関東支部賞（学生奨励賞）」を受賞
	大塚 健太	M2	「軽金属希望の星賞」を受賞
渡辺 唯	M2	「軽金属希望の星賞」を受賞	
平成 24 年度	網野 徹	M2	「日本機械学会関東支部大会・若手優秀講演賞」を受賞
	大塚 弾	M2	「日本機械学会関東支部大会・若手優秀講演フェロー賞」を受賞
	知久 直樹	M2	「日本機械学会関東支部大会・若手優秀講演フェロー賞」を受賞
	渡辺 涼太郎	M1	「軽金属学会関東支部若手研究者ポスター発表会・優秀ポスター賞」を受賞
	鮎田 茜	4 年	「アドバンティ 2012 シンポジウムポスターセッション・優秀発表賞」を受賞
	代表：田中 成弥	4 年	風力発電コンペ WINCOM2012・優秀賞」を受賞
	代表：加藤 弘樹	4 年	風力発電コンペ WINCOM2012・デザイン賞」を受賞
	小浦 和也	4 年	「日本人間工学会関東支部大会・発表奨励賞」を受賞
	大木 陽平	M2	「自動車技術会関東支部学術講演会・ベストペーパー賞」を受賞
	菊地 龍平	4 年	「自動車技術会関東支部学術講演会・ベストペーパー賞」を受賞
	大塚 康平	4 年	「自動車技術会関東支部学術講演会・ベストペーパー賞」を受賞
	木村 光晴	4 年	「自動車技術会関東支部学術講演会・ベストプレゼンター賞」を受賞
平成 25 年度	代表：寺澤 勝英	4 年	「日本マグネシム協会主催学生マグネシウムデザインコンテスト・制作部門 2 席」を受賞
	中井川 秀敏	M2	「日本マグネシム協会主催学生マグネシウムデザインコンテスト・制作部門努力賞」を受賞
	渡辺 涼太郎	M2	「軽金属学会関東支部若手研究者育成研修会・最優秀研究講演賞」を受賞
	池谷 洵	M1	「軽金属学会関東支部若手研究者育成研修会・最優秀研究講演賞」を受賞
	田中 健太	M2	「FAST-zero '13・Finalist for Best Paper Award」を受賞
	高橋 進 研究室		「千葉市科学フェスタ 2013 ちば SC グランプリ・3 位」を受賞
	渡辺 涼太郎	M2	「軽金属学会秋期大会・優秀ポスター賞」を受賞
	萩野 誠之	4 年	「鉄道技術連合シンポジウム 2013・優秀発表賞」を受賞
	若井 翔平	M2	「ADVANTY2013 シンポジウム・優秀発表賞」を受賞
	金子 堅太郎	M2	「微粒化シンポジウム・優秀講演賞」を受賞
	青木 貴志	M1	「微粒化シンポジウム・優秀講演賞」を受賞
岩崎 悠人	M1	風力発電コンペ・日本風力エネルギー学会賞」を受賞	

*学年は当時

電気電子工学科

■小井戸純司先生が論文賞を受賞しました

本学科 小井戸純司先生が一般社団法人日本非破壊検査協会より平成 24 年度日本非破壊検査協会論文賞を授与されました。

論文タイトルは「内挿コイルを用いたパルス渦電流試験による強磁性伝熱管の探傷」であり、受賞理由は「各種熱交換器の強磁性伝熱鋼管に対する内挿プローブを用いた渦電流探傷試験に関して、永久磁石による直流磁化を併用した新しいパルス渦電流型の探傷プローブについて述べたものである。

強磁性鋼管に特有の磁気ノイズを抑制し SN 比の高い探傷を行うためには、強い直流バイアス磁界を用いることが有効であるが、これを管内に限られた空間で実現することの困難を、パルス励磁と永久磁石との併用によって克服することを提案しており、また、パルス渦電流型でありながら、特定の周波数における同期検波によって、一般の渦電流探傷と同様の形態の信号が得られる方式を提案している点で、ユニークであると判断される。

一般の渦電流探傷や外部バイアス磁界を用いる方式とも比較を行って、提案手法の優位性について丁寧に議論しており、論文として完成度は高いものと判断されたため。」でした。先生の今後のご活躍を期待いたしております。



土木工学科

実績を見据えたキャリアデザイン教育の体系化に取り組んでいます

土木工学科では、3 年次夏期に学生個人による企業、役所などでの実習(実働 140 時間以上)と、学年全体による生産現場の見学・研修(1泊2日)をいずれも必修とし、「生産実習Ⅰ・Ⅱ」として運用しています。

また、近年では幾度かのカリキュラム改定を経て、「生産実習Ⅰ・Ⅱ」を軸としたキャリアデザイン教育の体系化に取り組んでおり、特に2年次設置科目である「キャリアデザイン」(前期)および「キャリアデザイン演習」

(後期)、さらに3年次後期からの就職支援プログラムとの連携を強化しています。

「キャリアデザイン」では自己分析を主題として、自身の適性や志向を踏まえた職業観を養成し、「キャリアデザイン演習」では業界研究を主題として、OB講演会や企業研究を通じ、学生自らが進路と将来像、そして実習先について考える仕組みを調えています。さらに、生産実習の事後教育では、報告書作成や成果報告会を経て、就職支援講座(SPI対策講座、面

接対策講座、資格支援講座)などのより実践的な講座へと連結しています。また、3年次冬期(12月、1月)には、毎日放課後に学内企業説明会(1日3社)を開催し、学生と企業とがマッチングするための機会を積極的に設けています。

なお、この成果の一例として、就職内定率は平成23年度以降、100.0%(平成20年度99.5%、平成21年度98.8%、平成22年度98.4%、平成23年度100.0%、平成24年度100.0%)を持続しており、今後も引き続き、「学生が土木技術者としての将来を楽しみにする。」キャリアデザイン教育の体系化に取り組んでいきます。



面接対策講座



就職対策講座

建築工学科

LEAF Awards 2103 集合住宅部門賞の受賞について — 准教授 岩田伸一郎

昨年9月にロンドンで行われた LEAF Awards 2103 の授賞式において、私の設計した「M アパートメント」が集合住宅部門賞をいただきました。LEAF Awards は Leading European Architects Forum が主催する著名な国際建築賞で、次世代の基準となる建築デザインが12の部門で表彰されます。世界中の著名建築家も過去の受賞者リストに名を連ねており、このような賞をいただけたことは大変名誉に感じています。

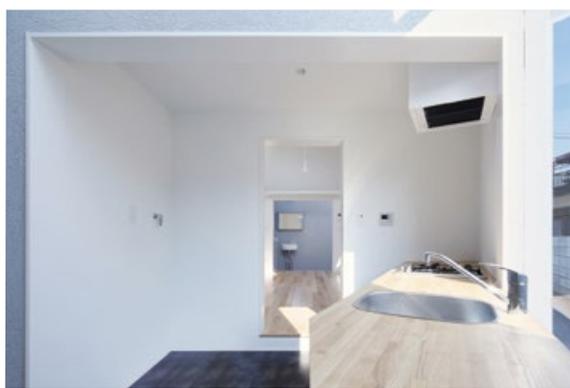
「M アパートメント」は、学生や単身者のための8住戸からなる平屋の小さな集合住宅です。単身者用でありながら各住戸が専用庭を持ち、共用廊下と専用部分の廊下が路地

のようにつながって見えることが特徴で、住戸同士の不思議な一体感が生まれています。

この建物は生産工学部キャンパスから近い二宮神社の向かいに位置しているので、既に目にされている方も多いかもしれませんが、この建物ができたことで街並みの印象も随分と明るくなったと感じてもらえているのではないのでしょうか。徒歩でも通学可能な好立地なので、本学の学生には(特に建築やインテリア関係の道を志す方に)ぜひとも実際に住んで空間を

体験してみることをお勧めします。

建築作品は絵画や彫刻などの芸術作品とは違い、仕事を依頼していただけてはじめて経済活動の一環としてモノが実現できます。そのため、設計の機会を与え私の提案にご賛同下さったクライアントをはじめ、建築の実現にご尽力いただいた工事関係者の方々の協力なくしては、今回の受賞はあり得ませんでした。最後にこの場を借りて感謝を申し上げます。



応用分子化学科

■受賞や研究発表が相次ぐ

大学院応用分子化学専攻 博士前期課程 1年の白石裕太郎君が平成 25 年 5 月 24 日と 25 日の両日に開催された分離技術会年会 2013 技術・研究発表講演会において、奨励賞を受賞しました。

この賞は分離技術の優れた研究発表に対して贈られるもので、今後、より一層の研究活動の進展が期待されます。



本学科卒業生(平成 9 年卒業)の白川誠司さん(京都大学大学院理学研究科特定准教授、専門:有機化学)が平成 25 年度科学技術分野の文部科学大臣表彰若手科学者賞を受賞しました。

この賞は高度な研究開発能力を示す顕著な研究業績をあげた 40 歳未満の若手研究者に贈られるもので、平成 25 年度は 89 名がこの賞を受賞しました。

2013 年 7 月、野呂知加子教授の研究論文が学術雑誌 Development, Growth & Differentiation 誌の DGD Paper Award を受賞しました。

2013 年 7 月、齊藤専任講師の研究論文が学術雑誌 Analytical Sciences 誌の Hot Articles(注目論文)に取り上げられました。

このように、学協会や社会に注目される研究が日々続けられています。

■岡田昌樹准教授・藤井孝宜教授が、海外派遣研究員としての出張を終え帰国しました

生産工学部長期派遣研究員として、ポルト大学(ポルトガル)での 1 年間の出張を終え、岡田昌樹准教授が帰国しました。

ポルト大学では金属有機構造体を吸着材として用いた低級炭化水素の分離に関する研究を行い、工業規模での分離技術に利用することを目的に吸着挙動の測定からプロセス設計にいたる一連のテーマに取り組まれました。

日本大学海外派遣研究員(短期 B)として、カルフォルニア大学サンディエゴ校(アメリカ)での 3 か月出張を終え、藤井孝宜教授が帰国しました。

カルフォルニア大学では有機金属触媒に関する研究に取り組まれました。海外の各専門分野の第一戦の研究室で学んだ経験は、先生方の教育と研究に役立てられています。

マネジメント工学科

フランスへの短期海外派遣記 —— 豊谷 純

私は昨年(平成 25 年)の 3 月に、短期海外派遣として、約 1 か月フランスへ消費者動向の現地調査に行っていました。

事前に、フランス人は外部からの知らない人に対して、強い警戒心を抱き、新しいものよりも古きものを尊ぶと聞いておりました。従って人脈を使ったとはいえ、見ず知らずの私に協力していただけるのか、とても不安で、フランス語の単語の勉強はしてみたものの、フランス語がろくに聞き取れない私でしたが、現地のフランス人から、とても親切で私が求めていた以上の協力をいただきました。

そのポイントは、当時は必死でしたので、誠意や気持ちで表わすしかないと考えておりましたが、比較的簡単な事で、必ず自分から相手の目を見て、ボンジュールと挨拶する事だったようです。

それに気づいたのが、現地でフランス人と結婚した日本人の 2 組目のご夫婦に会った際に、「あの(日本)人はフランス語で挨拶してくれたよ。いい人だ。何でも彼言う

ことを手伝ってやって欲しい。」とフランス人の旦那さんが喜んでいと、言われた時でした。

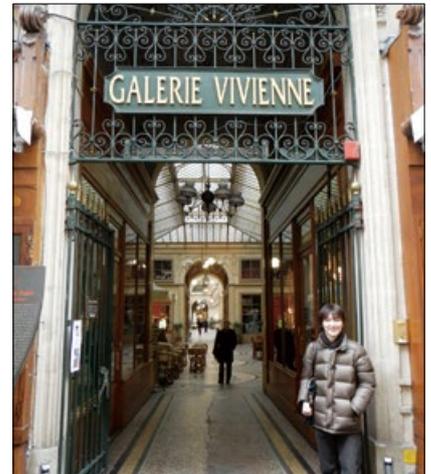
また、文化の違いには驚きの連続で、例えばフランスでは、ワイン 1 杯までは、法律で自動車の運転が許されており、小学生もブランドーなどのアルコール度数の高い醸造酒以外は、親が見ていれば飲んで良いとされています。今では浄水技術が普及しましたので水道水

が飲めますが、飲料水の無い時代に、ワインを飲んで生きてきた民族と、アルコールに比較的弱い自分に流れる根本的な DNA の違いに、羨ましさを感じてしまいました。

紙面の都合で書けませんが、素晴らしい国と文化を持ち、そして素敵な人生を過ごす人々でした。



プロバンス地方の調査でお世話になったジェラルド氏



現在の百貨店の先駆けと言われている高級商店街

数理情報工学科

2013年9月から5か月間、数理情報工学科にオランダのアムステルダム応用科学大学の学生スティーブン・バンデルペフト君がインターン学生としてやってきました。目的は、古市研究室3年生のB-cigogy チームに所属して数学教育用のシリアスゲームを開発すること。

当初は学生同士が英語でコミュニケーションを取りながらプログラムを開発できるか心配でした。しかし、ゼミ合宿で行った徹夜でプログラムを開発するライブコーディングイベントの時から、プログラミング言語さえわかればコミュニケーションは取れる、ということを実証してくれました。そして完成したシリアスゲームが Moe-Math Trigonometric Adventure、3月に函館で開催される日本デジタルゲーム学会でその成果を発表します。

ITの業界では、色々な国籍の人が一緒にチームを組んで世界を市場としたソフトウェアを開発する機会が増えています。

数理情報工学科では、この他にも海外の大学ヘインターンとして行くなど、国際化が急速に進んでいます。

数理情報工学科では国際化が急速に進行中



TV番組「キャンパストーク」に出演



ゼミ合宿中徹夜でコーディング行った学生達
国籍は日本、マレーシア、オランダの3か国

環境安全工学科

環境安全工学科は、40号館環境安全工学科・創生デザイン学科棟を共用し、学生・教員が1つの建物で教育・研究を行えるようになりました

10月28日朝5時から、1階の環境安全工学科共通大型実験室に、大学施設としては最大級の規模で宇宙環境を実現できる低圧環境研究共同システム (Low-pressure Investigation Cooperation System 略称 LINCS) を導入しました。

LINCSは、内径2.6m、長さ6m、内容積30m³の大型真空チャンバーです。40号館1階南側のシャッターを開けると、まるで潜水艦のような大きなLINCSが現れ、異彩を放っています。

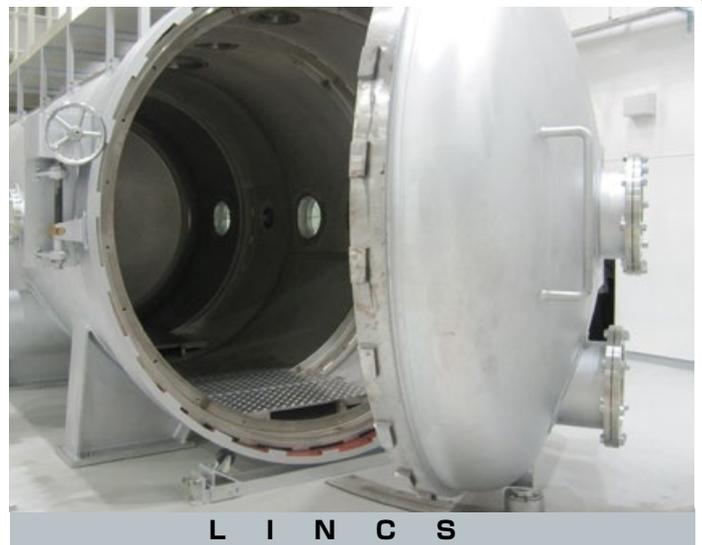
LINCSは、大気圧から1/1000気圧まで減圧でき、この装置の中に種々の計測機器などを入れた低圧実験が可能になります。

LINCSが達成できる1/1000気圧は、地表から約50kmの成層圏の大気圧です

ので、LINCSには使用申し込みがJAXAや東京大学からも来ており、生産工学部内外との新たな学際的な研究が始まろうとしています。

LINCSという略称は、環境安全工学科が学際的な研究を行っていることから、生産工学部はもとより、日本大学ひいては世界中の大学をはじめとする研究機関との「環」を結ぶものとして命名しました。環境安全工学科教員一同、新しい科学分野を開拓しようと、LINCSの運用を始めました。

また、環境安全工学科ではさらなる教育の



充実をはかるため、平成25年4月1日に東京電機大学から武村武助教を、10月1日には豊田中央研究所から秋濱一弘教授を迎え入れました。

なお、今年度には学科創設以来からお世話になりました神野英毅教授が11月1日に、松田清美教授が2月2日に、町長治教授が3月8日に定年退職されました。

創生デザイン学科

川岸梅和教授が「行政功労」を表彰されました

川岸梅和教授は、平成 25 年 11 月 1 日船橋市より多年にわたり開発審査会委員(初代会長)として建築行政の推進に多大なる貢献をされ、その功績をたたえ、「行政功労」を表彰されました。

「形態創生コンテスト 2013」で優秀賞

日本建築学会主催の「形態創生コンテスト 2013」において、創生デザイン学科の 4 年生と創生デザイン学科を卒業して大学院の数理情報工学専攻に在籍する学生らの提出した作品「Inside-out」が入選し、プレゼンテーションと公開審査の結果、栄えある優秀賞を勝ち取りました。

今年の課題は、「コラボレーションによってこれまでと異なる建築のかたちを創成する」でした。

島田英里子さん、熊谷正徳君、竹田怜平君、萱野さやかさん(以上は三井研究室)は、数理生物学を専攻する関谷駿君(野々村研



形態コンテスト 2013 作品

究室)と協働して高分子重合体の理論によって生成される形状から水族館を設計するという提案をしています。

審査員は、新谷真人先生(早稲田大)、池田靖史先生(慶応大)、久保田晃弘先生(多摩美)、本間俊雄先生(鹿児島大)、石井啓三さん(クイント)、豊田啓介さん(Noiz Architect)。

エントリー数は、34 件で応募は 21 作品。

「商品開発アイデアデザイン大募集」コンテストで特別賞受賞

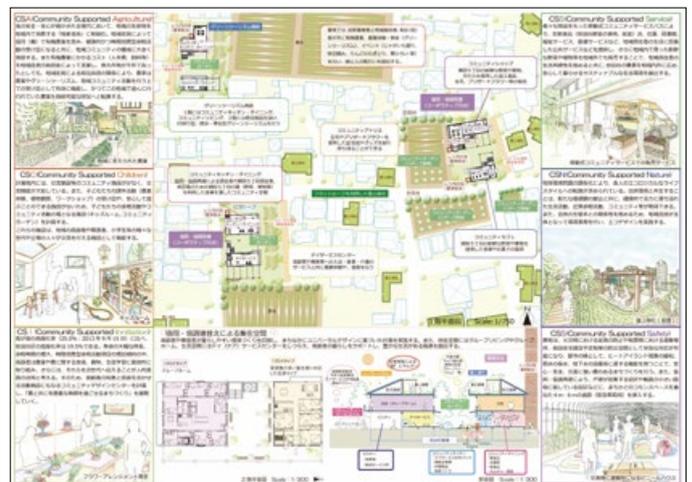
瑞穂町商工会工業部会主催「商品開発アイデアデザイン大募集」コンテストにおいて、井上堯之君(創生デザイン 2 年)の作品「トリアングル」が特別賞を受賞しました。



第 15 回提案競技「美しくまちをつくる、むらをつくる」 「世田谷の花や農と共にある暮らしの風景」で 川岸研究室チームが「最優秀賞」を受賞

川岸梅和教授を代表とする川岸研究室チーム(大学院建築工学専攻博士後期課程 3 年 野田りさ、博士前期課程 1 年 小林拓人 樋口咲子・菊池啓太)は、日本建築学会関東支部が主催する第 15 回提案競技「美しくまちをつくる、むらをつくる」「世田谷の花や農と共にある暮らしの風景」において最優秀賞を受賞した。(平成 25 年 11 月 17 日)

本作品では、「共に生きる・活きる暮らし」をタイトルとし、「参加と協同・協働によるまちづくり」と「コーポラティブ方式による協同・協調再建づくり」を基盤に、地域居住者(土の人)と来訪(街)者(風の人)が創生するコミュニティが支援する 6 つの要素(Agriculture、Children、Initiation、Service、Nature、Safety)を「世田谷の宝」と位置付け、ブラッシュアップし具体的な計画・デザイン化をはかり、提案している。



探傷試験は「安全」と「コスト」のトレード・オフ。コストダウンを提案し、お客さまに「導入して良かった」と言われる探傷試験装置を造るのが理想。

生産工学部は、学生が中心のキャンパスをめざし、教職員はもちろんのこと多くの方たちがさまざまなかたちで学生をバックアップしています。なかでも一段と心強いサポートをしてく

ださる卒業生の方々を紹介するのがこのコーナーです。今回は非破壊検査分野で金属部品などの探傷検査装置の開発に携わる小松慶亮さんにご登場いただきました。



マークテック株式会社 機械部探勝機械グループ 副参事 小松慶亮氏

■ロボット造りに携わりたくて入学した生産工

日大生産工学部に入ったのは、授業科目にロボット工学があったからです。高校生のとき、みなとみらいで開催されたロボット展示会を見に行き、ホンダのアシモやソニーのロボテックなどを目にして、自分もロボット造りに携わりたいと思いました。

入学後もロボットへの興味が薄れるこ

とはありませんでしたが、一方で電気が分からないとロボットも動かせない。いろいろ講義を聴き、実験を繰り返すうちに、徐々に電気にも興味を持つようになりました。

電気の何が面白かったかという点、ぱっと見で分からないところですかね(笑)。たとえば、蛍光灯は光っているから見えますが、その蛍光灯がなぜ光るのかは、想像と理屈のぼんやりしたところでは分からない。それを突き詰め

ていくのが面白かった。

■検査技師だった父に憧れて選んだ非破壊検査への道

学生時代は星川・小山研究室で、非破壊検査の一分野である「渦(うず)電流探傷試験」を研究しました。この分野を選んだ最大の理由は、今思えば、病院に勤めていた父が検査技師だったからかもしれません。父の背を見ながら、子ども心に「検査」に憧れていたような



【PROILLE】

小松慶亮 こまつ・けいすけ 1981年生まれ。千葉県出身。2004年3月日本大学生産工学部電気工学科卒業。2004年4月日本大学生産工学部研究科電気工学専攻入学。2006年3月同卒業。2006年4月マークテック株式会社入社。現在は機械部探傷機械グループ副参事。



たかどうか。

そう思うと、インターンシップでこの会社に来たのも、そこで大学院進学を勧めてくれた方に出会えたのも、運命だったという気がします。

■非破壊検査装置は医者が使う聴診器のようなもの

非破壊検査とは、言ってみればお医者さんと似たようなものです。具合が悪いからと

気がします。電気工学科で検査なら渦電流探傷試験。これは、私にとってはごく自然な道筋で、それが今の自分につながっていると思います。

■会社、人。進路を決定づけた生産実習での出会い

実は学部のあるところに一度、この会社に就職が決まっていた。もともとこの会社へは生産実習で来ていたのですが、そのときにお世話になった部長さんに、「今のままだったらあまり役に立たないから、2年間大学院で勉強してこい」と言われ、大学院進学を決意し、2年後にあらためて採用してもらえました。

今思うと、大学院で2年間勉強してきたことはとても大きかったと思います。

入社当初、私は、会社の仕事というのは上司から細かく指示されてやるものだろうと思っていました。しかし、実際は細かい指示などなく、「やりたいようにやってみろ」という感じで、ほとんど自分で判断してやっていかなければならない状況でした。戸惑いながらも、それを何とか乗り越えられたのは、大学院の2年間があったからこそだと思います。学部からそのまま就職していたら、自分から何かを提案、実行する発想を持て

医者にかかっても、いきなり「お腹切ってみましょうか」というわけにはいきませんね。まずは聴診器を当てたりしながら、いろいろ状況をみて判断するわけです。同じように、人ではなく物を傷つけずに検査するのが非破壊検査です。

渦電流探傷試験とは、検査する物(金属)に電気を流し、その電流をモニタリングして検体の状態を知ります。検体に「きず」などの異常があれば、電流が歪んで見えるわけです。渦電流探傷装置は、いわば医者が使う聴診器のようなイメージですね。その装置の開発が私たちの仕事です。

■「入れて良かった」と言われる機械を造りたい

安定した製品を世に出すためには一定の検査が必要です。たとえば自動車の金属部品など、完璧な製品であると仮定すれば検査をしなくてもいいわけですが、万が一その部品に不具合があって事故につながったら、大きな問題になります。そこは安全とコストの引き替えの部分です。安全のために検査はしたいが、検査の機械にコストはかけたくない。企業としては当然のことだと思います。

そこで、私たちは、検査機械をできる

だけスリム化してコストダウンを図ろうということです。

渦電流探傷試験装置には全自動というメリットがありますが、逆にそこを手動にすることによってコストダウンを図るといった提案もしています。これだと、装置の規模にもよりますが、4割はコストダウンが可能です。

いずれにしろ、私たちが心がけているのは、「この製品を入れて良かった」と思ってもらえるものづくり。それが理想ですね。

■10年後も、今と同じように最前線で働いていたい

とはいえ理想通りにはなかなかいかず、一番引き合いがあった機械でも、理想からみれば完成度は8割ぐらいでしょうか。

納入先はアメリカ、メキシコ、インド、タイ、中国など海外が多く、それぞれの国へ行きましたが、国ごとに要求が違うんです(笑)。まあ、共通項目は出てくるので、次からはそこをちゃんと造り込んでいこうと思っています。

10年後、20年後も今と同じように最前線で働いていたいと思いますが、すでに肩書きが付いて役職に就いてしまっている以上、そういうわけにもいかないでしょうね。もし、そうなっても、気持ちだけは最前線で頑張りたいと思っています。

取材後記

32歳という若さで役職に就いているだけあって……、というような表現はもはや時代遅れの感もあるが、そう言いたくなるほど落ち着きはらった物静かな語り口は、いかにも切れ者若手技術者という印象。とはいえ、通勤時(バスで1時間半!)の読書が趣味で、「東野圭吾のミステリーなど気楽に読める本がいいですね」と聞いて、一気に親近感が湧きました。「ドラマになった『ピブリア古書堂の事件手帖』(三上延)も面白かったです(笑)」とか。

平成25年度 表彰学生

日本大学による表彰学生

学長賞

応用分子化学科 4年生

早川 真理子 (はやかわ まりこ)

優等賞 (26名)

機械工学科	4年生	寺井 克	土木工学科	4年生	萩野谷 尚紀	マネジメント工学科	4年生	菅原 沙耶
//	4年生	瀬川 諒	建築工学科	4年生	遠田 拓也	数理情報工学科	4年生	増田 哲也
//	4年生	中野 堯	//	4年生	竹内 賢吾	//	4年生	竹内 良
//	4年生	渡邊 章博	//	4年生	古生 幸大	//	4年生	中尾 宗司
電気電子工学科	4年生	奥谷 由梨江	応用分子化学科	4年生	佐藤 美咲	環境安全工学科	4年生	河井 浩美
//	4年生	水戸 天平	//	4年生	古川 聖	//	4年生	久保 仁美
//	4年生	斎藤 大輔	//	4年生	小澤 純平	創生デザイン学科	4年生	荻田 彩音
土木工学科	4年生	細谷 知恵	マネジメント工学科	4年生	小貫 翔太	//	4年生	鈴木 友美
//	4年生	岡田 祐樹	//	4年生	榭井 赤人			

生産工学部による表彰学生

学部長賞・研究科長賞 (4名)

学術・文化部門 (2名)

建築工学専攻 D3 野田 りさ

●第15回提案競技「美しいまちをつくる、むらをつくる」[世田谷の花や農と共にある暮らしの風景] (日本建築学会関東支部主催) においてグループ作品「共に生きる・活きる暮らし」が最優秀賞 (応募作品数 20 作品中 1 位) を受賞。

●第15回「まちの活性化・都市デザイン競技」(まちづくり月間全国的行事実行委員会、財団法人都市づくりパブリックデザインセンター主催) においてグループ作品「共に生きる・活きる暮らし一人の暮らしがみえるまちなかの Re・Design」が(財)都市づくりパブリックデザインセンター理事長賞 (応募作品 32 作品中第3位) を受賞。

●旭市いいおか復興観光まちづくりコンペにおいてグループ作品「Community Supported IIOKA ～共に生きる・活きる暮らし～」が佳作 (応募作品 39 作品中 8 位以内) 及び市民賞 (応募作品 39 作品中 5 位以内) を受賞。

創生デザイン学科 4年生 進藤 篤

●第5回 SATO シールデザインコンペ (株式会社サトー、シール・ラベル本部デザイングループ主催:平成23年3月) において入賞。(応募人数 326 人、応募作品数 598 点中入賞作品は 35 点)

●フェリシモ Z・1 グランプリ kraso 生活雑貨大賞「ボーダーまな板」商品化 (株式会社フェリシモ主催:平成23年9月)

●KONICA MINOLTA エコ & アートアワード 2012 supported by Pen [next ACTION 部門] (コニカミノルタプラザ主催:平成24年3月) において作品「Denki no tobira」が準グランプリを受賞。(全部門 279 作品中該当部門 9 点入選)

●第76回新制作展スペースデザイン・ミニアチュール作品部門 (新制作協会主催:平成24年9月) において作品「慢食する輪郭」が入選。

●第77回新制作展スペースデザイン・一般作品部門 (新制作協会主催:平成25年9月) において作品「アメヤドリ」が入選。

●第77回新制作展スペースデザイン・一般作品部門 (新制作協会主催:平成25年9月) において作品「Moon」が入選。

●TOKYO DESIGNERS WEEK 2013 ヤングクリエイター展 (デザインアソシエーション NPO 主催:平成25年10月) において作品「frost」が入選。(応募作品数 2000 以上・36 作品を選出)

体育部門 (2名)

柔道部

マネジメント工学科 4年生 三輪 隼大

平成25年6月23日に講道館で行われた第54回全日本理工科学生柔道優勝大会団体戦において優勝。

柔道部

マネジメント工学科 4年生 今川 寛太

平成25年6月23日に講道館で行われた第54回全日本理工科学生柔道優勝大会個人戦 (初段の部) において第2位。

精励賞 (24名)

学術・文化部門 (17名)

機械工学専攻 M2 若井 翔平

ピークルオートメーション研究会 ADVANTY2013 シンポジウム (平成25年12月21日開催) におけるショットガン&ポスターセッションで、発表題目「小型 NIRS-BCI システムを用いたロボット制御インターフェイスの開発」が優秀発表賞を受賞。(応募者数 14 名中受賞者 3 名)

機械工学専攻 M2 金子 堅太郎

2013年12月に開催された日本液体微粒化学会第22回微粒化シンポジウムにおいて「高温・高圧力環境におけるパーメチルエステル液滴の蒸発温度履歴」の題目で研究成果を講演し、日本優秀講演賞を受賞。(受賞者 5 名、対象者 50 名)

機械工学専攻 M2 渡辺 涼太郎

一般社団法人軽金属学会第125回秋期大会 (平成25年11月9日開催) におけるポスターセッションで、発表題目「粉末冶金法によるアルミニウム基アップグレードリサイクル複合材料の特性」が優秀ポスター賞を受賞。(応募者数 42 名中受賞者 7 名)

機械工学科 4年生 荻野 誠之

第20回鉄道技術連合シンポジウム(平成25年12月4日開催)におけるショットガンセッションで発表題目「小型レール診断装置を用いた軌道の状態診断ソフトの開発」が優秀発表賞を受賞。(応募者数16名中受賞者4名)

建築工学専攻 M2 阿部 雄介

●2012年第39回日新工業建築設計競技「アジアモンスーンの家」においてグループ作品「雨と私、呼吸する家。」が上位11作品に入選し、佳作を受賞。(1等1点、2等1点、3等1点、佳作8点/応募総数368作品)

●2012年第1階歴史的空間再編コンペティションにおいて、グループ作品「小さな街、大きな銭湯」がファイナル審査で上位10位に入選。(上位10作品、応募総数308作品)

建築工学専攻 M2 高橋 亮裕

●第15回「まちの活性化・都市デザイン競技」(まちづくり月間全国的行事実行委員会、財団法人都市づくりパブリックデザインセンター主催)においてグループ作品「共に生きる・活きる暮らし〜人の暮らしがみえるまちなかのRe・Design〜」が(財)都市づくりパブリックデザインセンター理事長賞(応募作品32作品中第3位)を受賞。
●旭市いいおか復興観光まちづくりコンペにおいてグループ作品「Community Supported IIOKA〜共に生きる・活きる暮らし〜」が佳作(応募作品39作品中8位以内)及び市民賞(応募作品39作品中5位以内)を受賞。

建築工学専攻 M2 谷本 祐香子

2012年度日本建築学会設計競技「あたりまえのまぢ／かけがえのないもの(課題)」において関東支部入選。全国応募数364作品(関東支部応募数72作品、支部入選16作品)

建築工学専攻 M2 田村 一晃

●第15回「まちの活性化・都市デザイン競技」(まちづくり月間全国的行事実行委員会、財団法人都市づくりパブリックデザインセンター主催)においてグループ作品「共に生きる・活きる暮らし〜人の暮らしがみえるまちなかのRe・Design〜」が(財)都市づくりパブリックデザインセンター理事長賞(応募作品32作品中第3位)を受賞。
●旭市いいおか復興観光まちづくりコンペにおいてグループ作品「Community Supported IIOKA〜共に生きる・活きる暮らし〜」が佳作(応募作品39作品中8位以内)及び市民賞(応募作品39作品中5位以内)を受賞。

建築工学専攻 M2 福島 彰人

●2012年第1回大東建託賃貸住宅コンペ「風景をつくる賃貸住宅」において、グループ作品「1MDK」が最終審査で入選し、審査員特別賞を受賞。(最優秀1点、優秀賞2点、審査員特別賞3点、入選8点、学生特別賞10点、応募総数483作品)
●2012年第1階歴史的空間再編コンペティションにおいて、グループ作品「小さな街、大きな銭湯」がファイナル審査で上位10位に入選。(上位10作品、応募総数308作品)

建築工学科 4年生 浅野 康成

2013年度日本建築学会設計競技「新しい建築は境界を乗り越えようとするところに現象する(課題)」において全国入選、タジマ奨励賞受賞。(応募作品数323作品、支部入選数78作品、受賞者数23作品、タジマ奨励賞10作品)

建築工学科 4年生 大平 晃司

●2013年度日本建築学会設計競技「新しい建築は境界を乗り越えようとするところに現象する(課題)」において全国入選、タジマ奨励賞受賞。(応募作品数323作品、支部入選数78作品、受賞者数23作品、タジマ奨励賞10作品)

●公益社団法人日本造園学会主催平成25年度全国大会学生公開アイデアコンペ「日本橋」風景ブランディングー江戸文化の中心地「日本橋」という町をランドスケープの力でバリューアップするー(課題)において全国(佳作)入選。(応募作品数58作品、受賞数11作品(内佳作5作品))

建築工学科 4年生 島崎 翔

●2013年度日本建築学会設計競技「新しい建築は境界を乗り越えようとするところに現象する(課題)」において全国入選、タジマ奨励賞受賞。(応募作品数323作品、支部入選数78作品、受賞者数23作品、タジマ奨励賞10作品)

●公益社団法人日本造園学会主催平成25年度全国大会学生公開アイデアコンペ「日本橋」風景ブランディングー江戸文化の中心地「日本橋」という町をランドスケープの力でバリューアップするー(課題)において全国(佳作)入選。(応募作品数58作品、受賞数11作品(内佳作5作品))

建築工学科 4年生 地曳 弘太

2012年第1回大東建託賃貸住宅コンペ「風景をつくる賃貸住宅」において、グループ作品「1MDK」が最終審査で入選し、審査員特別賞を受賞。(最優秀1点、優秀賞2点、審査員特別賞3点、入選8点、学生特別賞10点、応募総数483作品)

建築工学科 4年生 高田 汐莉

2013年度日本建築学会設計競技「新しい建築は境界を乗り越えようとするところに現象する(課題)」において全国入選、タジマ奨励賞受賞。(応募作品数323作品、支部入選数78作品、受賞者数23作品、タジマ奨励賞10作品)

建築工学科 4年生 武末 俊吾

2012年第1回大東建託賃貸住宅コンペ「風景をつくる賃貸住宅」において、グループ作品「You me 庭」が最終審査で入選し、学生特別賞を受賞。(最優秀1点、優秀賞2点、審査員特別賞3点、入選8点、学生特別賞10点、応募総数483作品)

応用分子化学専攻 M2 齋田 康平

2012年5月に開催された分離技術研究会において「加圧条件下で二重共沸を示すDiethylamine(1)+Methanol(2)系の定圧気液平衡測定」の題目でポスター発表を行い、学生賞を受賞。(受賞2件、相平衡・蒸留セッションでの応募24件)

数理情報工学専攻 M2 鈴木 雄祐

平成24年度公益社団法人自動車技術会関東支部学術講演会(平成25年3月)において研究テーマ「Biotモデルを用いた積層構造防音材の音響特性解析」と題した発表がベスト・ペーパー賞を受賞。(応募論文数70件、受賞論文数8件)

数理情報工学専攻 M2 立川 裕隆

平成24年10月に開催された情報処理学会第20回マルチメディア通信と分散処理ワークショップにおいて「視聴状況に応じた番組推薦のための視聴傾向抽出手法の検討」と題したポスター/デモセッションを行い、優秀ポスター賞を受賞。(受賞3件、応募数13件)

創生デザイン学科 4年生 阿天坊 巧

旭市いいおか復興観光まちづくりコンペにおいてグループ作品「Community Supported IIOKA〜共に生きる・活きる暮らし〜」が佳作(応募作品39作品中8位以内)及び市民賞(応募作品39作品中5位以内)を受賞。

創生デザイン学科 4年生 石井 かえで

旭市いいおか復興観光まちづくりコンペにおいてグループ作品「Community Supported IIOKA〜共に生きる・活きる暮らし〜」が佳作(応募作品39作品中8位以内)及び市民賞(応募作品39作品中5位以内)を受賞。

創生デザイン学科 4年生 市毛 賢

旭市いいおか復興観光まちづくりコンペにおいてグループ作品「Community Supported IIOKA〜共に生きる・活きる暮らし〜」が佳作(応募作品39作品中8位以内)及び市民賞(応募作品39作品中5位以内)を受賞。

創生デザイン学科 4年生 稲葉 隼

旭市いいおか復興観光まちづくりコンペにおいてグループ作品「Community Supported IIOKA〜共に生きる・活きる暮らし〜」が佳作(応募作品39作品中8位以内)及び市民賞(応募作品39作品中5位以内)を受賞。

創生デザイン学科 4年生 落合 祐希

旭市いいおか復興観光まちづくりコンペにおいてグループ作品「Community Supported IIOKA〜共に生きる・活きる暮らし〜」が佳作(応募作品39作品中8位以内)及び市民賞(応募作品39作品中5位以内)を受賞。

創生デザイン学科 4年生 萱野 さやか

一般社団法人日本建築学会「形態創生コンテスト2013」においてグループ作品「Inside-out」が優秀作品(エントリー34件、応募作品数21件中2件)に選出。

体育部門 (9名)

卓球部 (1名)

土木工学科 4年生 中島 翔哉

平成24年度日本大学体育大会卓球競技会団体優勝

陸上競技部 (2名)

電気電子工学科 4年生 前田 崇光

平成25年度日本大学体育大会陸上競技会4×100メートルリレー優勝

数理情報工学科 4年生 佐藤 喬

平成25年度日本大学体育大会陸上競技会4×100メートルリレー優勝

バスケットボール部 (6名)

電気電子工学科 4年生 柳 博文

関東理工系大学バスケットボール連盟(加盟28校)における2011年理工系春季トーナメント優勝及び2011年理工系リーグ戦大会準優勝

建築工学科 4年生 高橋 謙太

関東理工系大学バスケットボール連盟(加盟28校)における2011年理工系春季トーナメント優勝及び2011年理工系リーグ戦大会準優勝

マネジメント工学科 4年生 新里 翔太郎

関東理工系大学バスケットボール連盟(加盟28校)における2011年理工系春季トーナメント優勝及び2011年理工系リーグ戦大会準優勝

マネジメント工学科 4年生 名城 貴央

関東理工系大学バスケットボール連盟(加盟28校)における2011年理工系春季トーナメント優勝及び2011年理工系リーグ戦大会準優勝

環境安全工学科 4年生 竹之内 隼

関東理工系大学バスケットボール連盟(加盟28校)における2011年理工系春季トーナメント優勝及び2011年理工系リーグ戦大会準優勝

環境安全工学科 4年生 丸田 祥貴

関東理工系大学バスケットボール連盟(加盟28校)における2011年理工系春季トーナメント優勝及び2011年理工系リーグ戦大会準優勝

功労部門 (2名)

機械工学科 4年生 光納 大智

平成24年度桜泉祭実行委員会委員長

数理情報工学科 4年生 難波 栄治

平成24・25年度スポーツ大会実行委員会委員長



第6回 風力発電コンペ

第6回風力発電コンペ WINCOM2013は、平成25年11月3日(日)に37チームが参加して開催されました。参加者の皆さまありがとうございました。今回の結果を発表いたします(氏名の敬称略)。



発電量部門

高校の部

- 最優秀賞** システム名称「RPM」
千葉県立下総高等学校
指導教員：高梨 和美 / 代表者：奈良 脩平
- 優秀賞** システム名称「KAZAGURUMA Part (働)」
東京都立杉並工業高等学校
指導教員：小杉 哲也 / 代表者：松本 健
- 優秀賞** システム名称「MIZUKI-01」
東京都立杉並工業高等学校
指導教員：宇津木 敏人 / 代表者：秋山 和輝
- デザイン賞** システム名称「疾風迅雷」
東京都立杉並工業高等学校
指導教員：小杉 哲也 / 代表者：阿部 千紘
- デザイン賞** システム名称「Brand New Wind 2013」
栃木県足利工業大学付属高等学校
指導教員：近藤 隆重、西牧 宏之 / 代表者：原 悠樹
- アイデア賞** システム名称「とある僕等の小型風車」
東京都立小石川中等教育学校
指導教員：上村 礼子 / 代表者：佐藤 圭一郎

オープン参加

- 優秀賞** システム名称「マワレ カゼガキタ 2号」
茨城県 代表者：北見 弘
- アイデア賞** システム名称「風機築電 - Wind Master -」
日本大学大学院生産工学研究科電気電子専攻
代表者：鶴見 智成
- 日本風力エネルギー学会賞** システム名称「LADY BIRD」
日本大学生産工学部機械工学科
代表者：岩崎 悠人

エネルギー利用部門

- 優秀賞** システム名称「ジョージ☆メリー・GO」
日本大学生産工学部機械工学科
代表者：石本 明日香



キャンパスガイド 表紙デザインコンペ

2014年度版キャンパスガイド表紙デザインコンペが開催されました

2014年度版生産工学部キャンパスガイド表紙デザインの募集が、平成25年10月1日から行われました。応募作品は10月30日(水)から11月2日(土)まで39号館1階ギャラリーに展示され、11月3日(日)に公開審査が行われました。応募総数50作品の中から、最優秀賞に建築工学科4年の高田汐莉さんの作品が選出され、2014年度のキャンパスガイドの表紙として採用されました。また、右記の皆さんが各賞を受賞されました。



審査結果発表の様子

- 最優秀賞** 作品名：私たちの街は「CIT」で学ぶことのできる技術によって創られる
制作者：高田 汐莉 (建築工学科4年)
- 優秀賞** 作品名：Emotion Signal ~様々な感情~
制作者：山崎 翼 (創生デザイン学科3年)
- 優秀賞** 作品名：「躍動」
制作者：武重 大樹 (創生デザイン学科2年)
- 佳作** 作品名：窓
制作者：進藤 篤 (創生デザイン学科4年)
- 佳作** 作品名：それぞれの道
制作者：杉本 実夏 (創生デザイン学科1年)
- 佳作** 作品名：つながり
制作者：加藤 裕太 (建築工学科3年)
- 佳作** 作品名：Spring Bubble
制作者：岡田 遼 (建築工学科3年)
- 佳作** 作品名：輝く生産工学部
制作者：菊地 真美 (建築工学科4年)
制作者：谷本 隼 (建築工学科3年)
- 校友会賞** 作品名：たまご
制作者：前原 良平 (創生デザイン学科2年)
- 校友会賞** 作品名：桜吹雪
制作者：畑 真由香 (建築工学専攻1年)
- 校友会賞** 作品名：彩
制作者：岩崎 耕平 (建築工学科3年)
- 校友会賞** 作品名：夢
制作者：白旗 勇太 (建築工学科3年)
- 校友会賞** 作品名：自らの手で創り出し創造すること
制作者：加藤 絵理 (建築工学専攻1年)
- 校友会賞** 作品名：自然
制作者：原 もも子 (建築工学科1年)
- 校友会賞** 作品名：Engineer for...
制作者：小林 千草 (数理情報工学科3年)、
久保玲和奈 (創生デザイン学科3年)
- 校友会賞** 作品名：開ける道
制作者：入澤 巧 (建築工学科3年)
- 校友会賞** 作品名：経験を力に
制作者：高橋 敦史 (建築工学専攻1年)
- 校友会賞** 作品名：道
制作者：古田 博一 (建築工学科3年)
- 校友会賞** 作品名：伸ばす、跳躍する能力(ちから)
制作者：吉井 公紀 (建築工学科4年)
- 校友会賞** 作品名：育む木
制作者：佐藤 舞 (建築工学科4年)
- 校友会賞** 作品名：様々な出会い
制作者：須賀 興紀 (建築工学科3年)
- 校友会賞** 作品名：時の流れ
制作者：長田 紗世子 (建築工学科3年)
- 校友会賞** 作品名：人にいきつく生産工学部の歴史
制作者：谷本 隼 (建築工学科3年)



表彰式の様子

平成 26 年度行事予定

行 事	2~4 年次：津田沼校舎	1 年次：実硯校舎	大学院	備 考
開 校 式	4月1日(火) [津田沼校舎]		4月1日(月)	
ガ イ ダ ン ス	4月2日(水)~7日(月) ※応化2・3年 4/1(火)から ※教職課程 4/3(木)・5日(土)	4月1日(火)~7日(月)	4月1日(火)	4/2にプレースメントテスト(1年次生)・学力テスト(2年次生) 4/7にTOEIC Bridge(1年次生)を実施
入 学 式		4月8日(火)		日本武道館
前 期 授 業 開 始	4月9日(水) ※4/29(火・祝)、7/21(月・祝)は授業日、4/30(水)、5/1(木)、5/2(金)は休校			
定 期 健 康 診 断	4月14日(月)~17日(木) 女子学生：4月16日(水)・17日(木)			
ス ポ ー ツ 大 会	5月17日(土)			
女子中高生のためのキャンパスカフェ	6月15日(日)			
大学院入学試験(第1期)・学内選考			7月5日(土)	
オ ー プ ン キ ャ ン パ ス	7月13日(日)			
前 期 授 業 終 了	7月29日(火)			
補 講	土曜日適宜実施			
夏 季 休 業	7月30(火)~9月18日(木) ※応用分子化学科1・2・3年のみ9/17(水)まで		7月30日(水)~9月18日(木)	
オ ー プ ン キ ャ ン パ ス	8月2日(土)・3日(日)			
A O 入 学 試 験	9月13日(土)・14日(日)			
後 期 ガ イ ダ ン ス	9月19日(金) ※応用分子化学科1・2・3年のみ9/18(木)・19(金)		9月19日(金)	
後 期 授 業 開 始	9月22日(月) ※9/23(火・祝)、10/13(月・祝)、11/24(月・祝振)は授業日			
卒 業 式・学 位 授 与 式(9月)	9月25日(木)		9月26日(木)	
父 母 懇 談 会	9月27日(土) 津田沼校舎			
創 立 記 念 日	10月4日(土)			休 校
編 入 学 試 験(2年次・3年次)	10月11日(土)			
外 国 人 留 学 生 入 学 試 験	10月11日(土)			
帰 国 生 入 学 試 験	10月11日(土)			
校 友 子 女 入 学 試 験	10月11日(土)			
父 母 懇 談 会	10月25日(土) 地方別実施			
学 部 祭 (桜 泉 祭)	11月2日(日)・3日(月・祝)			11/1準備日・11/4片付日
入 試 説 明 会・オ ー プ ン ラ ボ	11月2日(日)			
指 定 校 制 推 薦 入 学 試 験	11月15日(土)			
提 携 校 推 薦 入 学 試 験	11月15日(土)			
保 健 体 育 審 議 会 推 薦 入 学 試 験	11月15日(土)			
ト ッ プ ア ス リ ー ト 推 薦 入 学 試 験	11月15日(土)			
付 属 高 等 学 校 等 推 薦 入 学 試 験(B方式)	11月15日(土)			
博 士 論 文 提 出 期 日			11月21日(金)	
学 術 講 演 会	12月6日(土)			
公 募 制 推 薦 入 学 試 験	12月13日(土)			
付 属 高 等 学 校 等 推 薦 入 学 試 験(A方式)	12月13日(土)			
冬 季 休 業	12月24日(水)~1月8日(木)			
後 期 授 業 終 了	1月30日(金)			
補 講	土曜日適宜実施			
大 学 入 試 セ ン タ ー 試 験(C方式)	1月17日(土)・18日(日)			
修 士 論 文 概 要(初稿)提 出 期 日			1月22日(木)	
一 般 入 学 試 験	N 1 方 式	2月1日(日)		
	A 1 方 式	2月2日(月)		
	A 2 方 式	2月9日(月)		
	A 3 方 式	2月19日(木)		
修 士 論 文 提 出 期 日			2月23日(月)	
転 科 試 験(2年次)	3月2日(月)			
大 学 院 入 学 試 験(第2期)			3月7日(土)	
卒 業 式・学 位 授 与 式	3月25日(水)		3月25日(水)	日本武道館

個人情報の取扱い告知文

入学手続き時及び在学中に収集する学生本人及び保証人の氏名、住所、生年月日及びその他の個人情報は、学籍・成績管理、教育、学生生活支援、学費の案内、図書館利用、就職支援等及びこれらの業務に付随する学生及び保証人への連絡・通知・掲示等、本大学の教育事業に必要な範囲で利用します。

また、これらの業務の一部を業者に委託する場合があります。この場合、当該業務の委託を受けた業者は、上記利用目的の達成に必要な範囲を超えて個人情報を利用することはありません。

なお、本大学では、学生への教育・指導をより適切に行うため、保証人に対して学生の学業成績及び出席状況等の開示並びに履修状況等についての相談を行う場合があります。

(問合せ先) 生産工学部教務課・学生課

NEW BUILDING

津田沼校舎 40号館



1F ホール



1F 環境安全工学実験室



2F 会議室



5F コミュニティ広場



5F ギャラリー



2F 事務室



4F 創生デザイン演習室

既存の専門 7 学科を横断する分野として設けられた環境安全工学科、創生デザイン学科の拠点棟が 40 号館です。生産工学部創設 60 周年記念棟として昨年 2 月に竣工しました。研究室、演習室、大小実験室や卒研ゼミ室を配するとともに、各階に多様なコミュニティスペースも多数設け、学生のコミュニケーション能力を高める目的も図られています。

概要

名称：日本大学生産工学部津田沼校舎 40 号館
階数：地上 7 階建
建築延面積：9,570.05m²
建築面積：1,529.66m²

スプリング

SPRING No.102

(日本大学生産工学部だより)

平成 26 年 3 月 20 日発行

編集・発行 日本大学生産工学部 広報委員会

本誌に関する照会その他は下記へお願いします。

〒 275-8575 千葉県習志野市泉町 1-2-1 日本大学生産工学部 庶務課

電話 047-474-2201 FAX 047-479-2432

E-mail : cit.info.shomu@nihon-u.ac.jp

www.cit.nihon-u.ac.jp